

長崎日ポ協会創立のころ

廣高 信雄

先日、久しぶりに長崎歴史文化協会を訪ね越中先生にお逢いしたら、「長崎ポルトガル名誉副領事として中野藤太郎氏が任命されてより四十五年になるので、当時の事を記録しておいて下さい。」との事であった。たしか昭和四十年頃であったと思うが、私の松山高商（現在の松山大学）時代の同窓で中野一夫氏より連絡があり、一夫氏の御尊父中野藤太郎氏が長崎ポルトガル名誉副領事に任命されたので「長崎に名誉領事連絡事務所を設立せねばならぬのでは非協力して戴けないか」という連絡があった。

その頃、私は現在地の今魚町七九番（現在魚町二一十一）に昭和三十三年三月「広高商店」を創立し「観光土産綜合卸」を開業し忙しい時であったが、友人よりの依頼でもあり「長崎ポルトガル名誉領事館事務所」を私の商店内の一室を開け、御引き受けする事にした。そして事務所の開設の時にはフルマンド・ポルトガル大使夫妻が来崎され、中野氏と私がテープ・カットをした。

今回、当時の書類を整理していたら、次のようなポルトガル大使館の書類が出てきたので、私がポルトガル副領事に任命されたのは一九六八年（昭四三）八月七日だった事がわかった。



長崎開港400年記念祭で長崎日ポ協会のポルトガル船にのってパレードする廣高氏

外務省の規則第四條と第五條に従ってポルトガル共和国政府の名前によって広高信雄氏を長崎と其の地区（九州七県）に於いてポルトガル国の名誉副領事に任命した。一九六八年八月七日 外務大臣 アルベルト・フランコ・ノゲイラ 私の任命式は二十六聖人記念館でポルトガル大使が来崎されパチェコ

一、本協会最初の事業として「長崎開港の第一歩を踏み出すことに貢献のあったルイス・アルメイダの記念碑を建てる事にした。其の実行委員として次の八名に依頼する事にした。

委員長 諸谷義武（長崎市長・長崎日ポ協会会長）パチェコ神父、越中哲也、中西啓、丹羽漢吉、山下直一、広高信雄、監査 藤原秀域、アルメイダの記念碑は長崎で最初に造建された教会（トウドス・オス・サントス）跡と領主長崎氏の屋敷の近くに建てたい。設計・下絵は丹羽氏に依頼、文字はパチェコ神父。期日はポルトガル大使が初めて九州（長崎）を公式訪問される十月六日に完成させ、大使に除幕式に出席して戴き、昼はレセプションを、夜は長崎日ポ協会総会を開催する。

早速募金を開始している。一口・五〇〇円。十八銀行、親和銀行、純心学園、藤木博英社等より大口の寄附を戴いている。そしてアルメイダの記念碑は予定どおり完成し、東京の方より大使をはじめ柳・高野各委員、地元より中野名誉領事、諸谷市長をはじめ市内の各委員、記念碑建立について種々と御協力戴いた春徳寺上野住職も出席され、除幕式後は上野住職の御厚意で春徳寺客殿で一同御接待を戴いた。特に大使御一行には大変よろこんで戴いた。昭和四十三年度収支決算表をみたら収入六〇万。支出は事務費二二万五千円、事業費二七万五千円とあった。

今一つ私には長崎日ポ協会での深い思い出がある。それは昭和四十五年四月二十九日長崎開港四〇〇年記念行事の一つに長崎日ポ協会を代表しポルトガル船を造り協会の藤原秀域委員・村木菅介委員と共に仮装して乗り込み、市中を巡回したことである。この時の事をパチェコ神父様は次のように記しておられる。

広高さんは長崎開港四百年祭の行事にポルトガルの長崎における初めての名誉副領事の立場で参加された。その時の仮装行列で広高氏は私の司祭服をまもって見事にイルマン・アルメイダを演じられた。

この昭和四十五年秋、中野名誉領事がなくなられたので、私は私共のような個人企業が名誉領事館を御受けすべきでないと考え、日ポ協会長の柳氏や高野女史に相談し、十八銀行清島頭取に長崎名誉領事をお願いし私し方の長崎日ポ名誉領事館も十八銀行内に移転して戴く事に致しました。（株）ひろたか 会長

神父の立会のもとで行われた。

私は最初、長崎日ポ名誉領事館事務所をお引き上げた時、ポルトガルの事をよく知らなかったので以前より種々と御世話になっていた二十六聖人記念館館長のパチェコ神父（日本名「結城了悟」）に御相談した。神父様は其の時、「長崎開港の基になったのはポルトガルの人達なので、長崎とポルトガルとは関係が深いのです。その故に九州地区にポルトガルが名誉領事館を設立するとすれば長崎の地なのです。市民をあげて領事館の開設に協力いたしましょう。」と歴史的資料も並べて説明して下さいました。そして此の時、越中先生や中西啓先生も紹介して下さいました。

間もなく東京のポルトガル大使館よりポルトガルの国旗が送って参りまして、家の前に常時かかげておくようにとの指示や連絡があった事を覚えていきます。

そして次には、名誉領事・副領事が確定したら、其の領事の仕事を支援する「日本ポルトガル協会」（長崎日ポ協会）を創立せねばなりませんとの事であった。今その時の記録（議事録）の一部が残っていたので其れより拾うと次のように記してあった。

昭和四三年六月二十二日（土）午後一時より三時まで。会場、西坂町二十六聖人記念館 館長室、「出席者」パチェコ神父、越中哲也、丹羽漢吉、藤原秀域、広高信雄 主な議題

一、先日（六月四日）東京岩波ホールで日本ポルトガル協会総会があり出席。岩波ホールの高野悦子先生が日ポ協会の理事であり、事務的なことは全て処理して下さいましたし、長崎日ポ協会の今後の活動、運営についても種々と御指導、御助言を戴いて帰ってきた。

一、日本ポルトガル協会の会長は三井銀行頭取の柳満珠雄氏であり、今後の「長崎日ポ協会」運営について御協力下さるとの事であった。

風信

○三月十四日（土）長崎染の会（会長・松尾淑子女史）の依頼で江戸時代唯一ヶ所・唐蘭船によって長崎に運ばれてきた「更紗」の話をする事になった。長崎には反物目利役がいて、輸入されてくる「更紗」を「反物見本帳」によって識別し其の価格をきめていた。そして遂に我が国に於てもサラサの製作に取りかかり、天明五年（二七八五年）には大阪の稲葉新右衛門が有名な「更紗図譜」を出版している。長崎サラサでは上野彦馬の父・上野俊之丞が作った「中島更紗」の名はよく知られている。

○三月二十六日、先年来、NHK長崎文化センターと共催し開催してきた「長崎の史跡を巡る会」で、本年度の前期は三・四・五月開催と決定。早速三月には思案橋より丸山・大徳寺・みゆき坂方面を訪ねた。そして今回は特に石橋祐子女史の御協力もあり「長崎市史」にも記載のある行満院の本尊で兒島高德との伝説もある木彫大日如来像や不動明王像など秘佛を拝見させて戴き、一同大いに感激して帰路についた。

○お祖母様や叔母さん達が長崎の街で原爆にあわれたと言う事に端を発し先年来、原爆の問題を国際文化論として取りあげ法政大学博士コースに論考を提出されていた桐谷多恵子さん。先日、「博士論文として認められました。」と私の事務所に御両親と御一緒にお礼にこられた。そして涙ぐんで其の分厚い論考の写しを贈呈して下さいました。

○四月八日は「花まつり」お釈迦様の誕生日である。私が国で最初に行われた「花まつり」は六〇五年推古天皇十四年と記してある。花まつり時にはお釈迦様の「誕生佛」に甘茶をかけるのであるが、対馬市久根浜の大興寺の誕生佛は朝鮮高麗時代（十世紀後半）の製作で美術的にも優れており県有形文化財に指定されている。私は若い頃、同種の誕生佛を壱岐市芦辺の龍藏寺で見せて戴いたような思い出がある。

○有家史談会の山田泰造会長より「嶽南風土記十六号」をお贈り戴いた。表題に「島原半島文化賞受賞・結城了悟神父追悼記念号」とあり、論考の第一章に神父の「松倉重政とコロウス神父」の論考があり、続いてギリシヤン墓碑の研究、天軍軍記、有馬晴信の榮光と没落などと、論考が続き、地方史研究資料としては大いに参考となった。（事務所・南島原市有家町尾上山田宅・誌代千円）

長崎歴史文化協会研究室

TEL八二二一五四〇
十八銀行公会堂前出張所二F

